

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720230

研究課題名（和文） 近代日本における二大政党制の展開過程の実証的研究—新史料に基づいて

研究課題名（英文） Study of the development process of the Two Party System in modern Japan: based on new resources

研究代表者

奈良岡 聡智 (NARAOKA SOCHI)

京都大学・法学研究科・准教授

研究者番号：90378505

研究成果の概要（和文）：本研究は、近代日本における二大政党制の展開期の政治過程を、新史料に基づいて実証的に解明すると共に、その歴史的経験を今目的視点から捉え直したものである。主たる成果は、以下の通りである。（1）憲政会の機関誌『憲政』準機関誌『憲政公論』の復刻出版を行った。（2）1920年代の二大政党制の展開過程に関する論文を公刊した。（3）衆議院事務局所蔵の帝国議会期資料を整理し、目録化した。（4）衆参両院事務局のOBにオーラル・ヒストリーを実施し、その記録を公刊した。

研究成果の概要（英文）：This study examined the development process of the Two Party System in modern Japan, based on new resources. The main achievements are as following. (I) I arranged for reprinting “Kensei” “Kenseikoron” which was published by Kenseikai. (II) I published some articles on the development process of the Two Party System in the 1920s. (III) I arranged the huge collections of documents kept in the House of Representatives, and made the catalogue. (IV) I interviewed OBs of the Secretariats of the House of Representatives and the House of Councilors

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：二大政党制、政治史、日本史、近現代史

1. 研究開始当初の背景

近代日本における政党政治史研究は、近年飛躍的に進んでいるものの、1920年代に展開した二大政党制に関する研究は、いまだに不十分である。本研究は、これまで研究蓄積の浅い二大政党制の展開期の政治過程を、新史料に基づいて実証的に解明すると共に、その歴史的経験を今目的視点から捉え直そうとす

るものである。

2. 研究の目的

（1）戦前期の政党政治史研究は、従来政友会系を中心に行われ、民政党系（立憲同志会・憲政会・立憲民政党）については研究が乏しかった。その大きな理由の一つは、一次史料が少ないことにあった。本研究では、こ

の傾向を是正するため、これまで発行状況が不明とされてきた憲政会の機関誌『憲政』、準機関誌『憲政公論』の全バックナンバーの所在を確認し、その復刻出版を行う。

(2) 上記史料を活用しつつ、戦前期の二大政党対立の実相を解明する。

(3) 従来その存在が知られず、従って研究に全く活用されてこなかった衆議院事務局所蔵の帝国議会期資料の調査・整理を行う。

(4) 衆参両院事務局のOBにオーラル・ヒストリーを実施し、両院事務局に残されている各種史料の状況について把握すると共に、これまでほとんど研究がほとんどなされていない議院事務局の役割、国会官僚の役割について検証する。また、五五年体制の崩壊と1990年代以降の二大政党化の進展の淵源について検討を行う。

3. 研究の方法

(1) 各種一次史料の収集・分析を中心とした。主な訪問先は、以下の通りである。国立国会図書館、衆議院憲政記念館、外務省外交史料館。

(2) 地方での調査にあたっては、京都市歴史資料館、津野町郷土資料館（高知県）、愛西市八開郷土資料室（愛知県）から協力を頂いた。

(3) 科学研究費補助金に基づく共同研究「衆議院事務局の未公開資料群に基づく議会法制・議会先例と議院事務局機能の研究」（研究代表：大石眞氏、課題番号21243004）と密接に連携しながら研究を進めた。

(4) 帝国議会期資料の調査、オーラル・ヒストリーの実施にあたっては、衆参両院事務局から協力を頂いた。また、記録の作成のため、テープ起こしの専門家の協力を得た。協力者は、以下の通りである。丹羽清隆、若林作絵。

4. 研究成果

(1) 『憲政』『憲政公論』の復刻出版

① 『憲政』『憲政公論』の48号分が未復刻のまま残されていることを、東京大学法学部政治学研究所附属近代日本法政史料センターその他の各種機関における調査によって確認した。全号の所在が確認できたので、解題「憲政会と機関誌『憲政』『憲政公論』」を付して、『憲政／憲政公論』全8巻（柏書房）として復刻出版した。本資料は、今後政党政治史研究を行う上で、必須の史料として活用される

ものと見込まれる。

② 2010年に本史料に基づく報告「大正・昭和初期における政党の機関誌と政権獲得戦略－憲政会系を中心として」を日本選挙学会において行い、研究者の間で議論を行った。同目録は、日本選挙学会HP上で公開している（下記5を参照）。

(2) 『時事新報』の復刻出版
戦前期の有力紙『時事新報』のうち、大正期分の復刻出版の監修を行った（2012年1月～柏書房から刊行開始）。同紙の復刻出版は、今後戦前期の政党政治史のみならず、外交史、経済史、文学史など歴史研究全般の促進に寄与するものと思われる。解題として「大正期の時事新報－経営と報道」を執筆した。

(3) 中央における政治過程の分析論文
「大隈重信」「第一回普通選挙」を執筆し、中央における二大政党制の形成・展開過程の分析を行った。

(4) 地方における政治過程の分析
① 愛知県海部郡において加藤高明に関する史料調査を実施し、その成果を「加藤高明と海部津島」と題する講演で発表した（於海部歴史講演会、2010年12月5日）。「黎明期のあいさい出身の政治家たち」（愛西市八開郷土資料室、2010年11～12月）の展示協力を行った。

② 京都市歴史資料館、京都府立総合資料館などにおいて片岡直温に関する史料調査を実施し、論文「片岡直温と京都」（1）～（3）を発表した。高知県高岡郡津野町において史料調査を実施し、同町主催の展示企画「片岡家別荘と片岡家の人々」（於片岡家別荘・津野町郷土資料館、2011年6月26日）に協力すると共に、講演を行った。

(5) 衆議院事務局所蔵資料の調査
衆議院事務局所蔵の帝国議会期資料の調査・整理を、科学研究費補助金に基づく共同研究「衆議院事務局の未公開資料群に基づく議会法制・議会先例と議院事務局機能の研究」（研究代表：大石眞氏）と連携しつつ、進めた。本年度の整理に基づいて、「衆議院事務局議事部議事課所蔵帝国議会期文書仮目録」を作成した。同目録は、ウェブ（九州大学学術リポジトリ）上で公開している（下記5を参照）。

(6) 衆参両院事務局OBへのオーラル・ヒストリー
「衆議院事務局の未公開資料群に基づく議会法制・議会先例と議院事務局機能の研究」

と連携しつつ、赤坂幸一氏、今津敏晃氏、奥健太郎氏、村井良太氏と共に、衆参両院事務局 OB にオーラル・ヒストリーを実施した。お話を伺ったのは、以下の方々である。今野彥男氏（元衆議院議事部副部長）、近藤誠治氏（元衆議院調査局長）、佐藤吉弘氏（元参議院委員部長）、指宿清秀氏（元参議院事務総長）、平野貞夫氏（元衆議院委員部長）。聞き取りの記録は冊子化し、国会図書館や関係研究機関に寄贈した。このうち、今野氏、近藤氏の記録については、『国会運営の裏方たち』『立法過程と議事運営』として公刊した。さらに、聞き取りの過程で収集された諸資料についても、保存・公開の措置を講じた。

（7）現代における二大政党制の形成過程の分析

消費税導入問題の分析を通して、現代における二大政党制の形成過程を考究し、論文「消費税導入をめぐる立法過程の検討」を発表した。また、同問題に関する重要史料である平野貞夫（著）赤坂幸一・奈良岡聰智（校訂・解題）『消費税国会の攻防 一九八七―八八平野貞夫衆議院事務局日記』（千倉書房）の出版準備を進めた（2012年公刊）。

（8）学会の企画

近現代日本における二大政党制について通時的に考察する場を設けるため、2011年5月開催（於関西学院大学）の日本選挙学会の企画委員として、「日本政治史における「政権交代」」（歴史部会）を企画した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

①奈良岡聰智、大正期の時事新報―経営と報道、池内輝雄・奈良岡聰智監修、時事新報（復刻版）1～5巻（大正元年7月30日～12月）（柏書房）、査読無、2012年、pp. 1-19

②奈良岡聰智、消費税導入をめぐる立法過程の検討―「平野貞夫日記」を手がかりに、レヴァイアサン、査読無、48号、2011年、pp. 99-130

③奈良岡聰智、解説、浅見雅男『皇族誕生』（角川書店）、査読無、2011年、pp. 295-303

④奈良岡聰智、第1回普通選挙、筒井清忠編著『解明・昭和史』（朝日新聞出版社）、査読無、2010年、pp. 9-29

⑤奈良岡聰智、片岡直温と京都(3)、京都市

政史編さん通信、査読無、38号、2010年、pp. 1-5

⑥奈良岡聰智、片岡直温と京都(2)、京都市政史編さん通信、査読無、37号、2010年、pp. 1-6

⑦奈良岡聰智、片岡直温と京都(1)、京都市政史編さん通信、査読無、36号、2009年、pp. 3-7

⑧奈良岡聰智、大隈重信―政党政治の実現に生涯を賭した「稀代の天才政治家」、月刊自由民主、査読無、677号、2009年、pp. 94-101

〔学会発表〕（計1件）

奈良岡聰智、大正・昭和初期における政党の機関誌と政権獲得戦略―憲政会系を中心として、日本選挙学会、2010年5月15日、於明治大学

〔図書〕（計10件）

①池内輝雄・奈良岡聰智監修、時事新報（復刻版）1～5巻（大正元年7月30日～12月）（柏書房）、2012年、総1880頁

②平野貞夫（述）、赤坂幸一・奈良岡聰智・村井良太（インタビュー・構成）、平野貞夫オーラルヒストリー（上巻）（赤坂幸一・奈良岡聰智・村井良太）、2012年、pp. 1-309

③平野貞夫（述）、赤坂幸一・奈良岡聰智・村井良太（インタビュー・構成）平野貞夫オーラルヒストリー（下巻）（赤坂幸一・奈良岡聰智・村井良太）2012年、pp. 1-300

④指宿清秀（述）、赤坂幸一・奥健太郎・奈良岡聰智（インタビュー・構成）指宿清秀オーラル・ヒストリー（赤坂幸一・奥健太郎・奈良岡聰智）、2011年、pp. 1-348

⑤佐藤吉弘（述）、赤坂幸一・今津敏晃・奈良岡聰智（インタビュー・構成）、佐藤吉弘オーラルヒストリー（赤坂幸一・今津敏晃・奈良岡聰智）、2011年、pp. 1-311

⑥近藤誠治（著）、赤坂幸一・奈良岡聰智（編著）、立法過程と議事運営―衆議院事務局の三十五年（信山社）、2011年、pp. 1-432

⑦近藤誠治（述）、赤坂幸一・奈良岡聰智（インタビュー・構成）、近藤誠治オーラルヒストリー（赤坂幸一・奈良岡聰智）、2011年、pp. 1-405

⑧今野彥男（著）、赤坂幸一・奈良岡聰智（編著）、国会運営の裏方たち―衆議院事務局の

戦後史 (信山社)、2011 年、pp. 1-424

⑨今野彧男 (述)、赤坂幸一・奈良岡聰智 (インタビュー・構成)、今野彧男オーラルヒストリー (赤坂幸一・奈良岡聰智)、2010 年、pp. 1-442

⑩奈良岡聰智監修、憲政／憲政公論(全 8 巻) (柏書房)、2010 年、総 4753 頁(別冊解題 29 頁を含む)

[その他]

ホームページ等

①奈良岡聰智・赤坂幸一・若月剛史・近藤秀行・鈴木敦、帝国議会期文書仮目録、2010 年、pp. 1-26

<http://hdl.handle.net/2324/17762>

②奈良岡聰智、大正・昭和初期における政党の機関誌と政権獲得戦略－憲政会系を中心として、日本選挙学会報告ペーパー (2010 年 5 月 15 日、於明治大学)

<http://www.jaesnet.org/archives/report-archives/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

奈良岡 聰智 (NARAOKA SOCHI)
京都大学・法学研究科・准教授
研究者番号：90378505

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし